

福祉教育委員会における質疑・答弁の概要（令和6年8月23日開催）

資料1（参考資料）

No.	質疑項目	該当頁	質疑者	答弁者	質疑内容	答弁内容
1	公園などの施設整備について	37	小林憲生 委員	子育て支援 課長	Ⅲ第2期豊橋市子ども・子育て応援プランの総括 3基本目標ごとの評価 (2)基本目標2子どもの豊かな人間形成を支える環境づくり ③課題に公園などの施設に関する課題があるが、参考資料①計画の体系図には施設整備などに関する項目がなく、どのような位置づけになるのか伺う。	公園などの子どもが遊べる施設へのニーズは非常に高く、小さな子ども連れや障害のある子どもが安心して安全に遊ぶことができる施設・設備の充実が課題となっております。次期計画においては、豊橋公園などにインクルーシブ遊具を設置することや、子ども未来館や生涯学習センターなどの屋内施設が安心して利用できる施設整備について、体系図の「子どもを応援する視点」での取組として「地域における子どもの居場所の確保」や「子どもの多様な体験活動の充実」、「子ども・若者の健康づくりの増進」に位置付けてまいりたいと考えております。
2	若者への支援について	43	小林憲生 委員	子育て支援 課長	Ⅴ豊橋市子ども計画の体系 1基本理念に「若者」という記載がないことについて伺う。	基本理念は計画の根本を定めるものであるため、「子ども基本法」や「子ども大綱」の考え方を踏まえ、若者も含めた「子ども」という言葉で表記しておりますが、それ以外の部分の、主に思春期や青年期といった若者を対象とする内容については、「若者」という表記をあえて追加し、わかりやすい表現となるよう工夫しております。
				子育て支援 課長	若者への支援には、進学や就職、結婚への支援などが含まれると考えるが、どのように位置づけるのか伺う。	基本理念の実現に向けた7つの目標を達成するためには、若者が望む選択を応援するための進学や就職、結婚への支援をさらに充実させる必要があると考えており、3つの視点からさまざまな施策を検討し、若者への支援についても計画に位置付けてまいりたいと考えております。
3	目標達成の確認について	44	小林憲生 委員	子育て支援 課長	Ⅴ豊橋市子ども計画の体系 3計画の体系にある7つの目標が達成できたかどうか、どのように確認するのか伺う。	7つの目標は、子どもや若者が「できるようになること」であるため、子どもや若者を対象としたアンケート調査を実施し、当事者である子どもや若者がどのように感じているのか、また、それがどのように変化しているのかを継続的に確認してまいりたいと考えております。
4	評価指標の考え方について	31 ～ 40	井上豪史 委員	子育て支援 課長	Ⅲ第2期豊橋市子ども・子育て応援プランの総括では、現行計画の評価指標の達成状況により評価しているが、次期計画における評価指標の考え方について伺う。	次期計画においては、現行計画の指標で7つの目標達成に資するものに加え、子ども・若者の視点に立った新たな評価指標を設定してまいります。子どもや若者が「できるようになること」を7つの目標として定めるため、評価指標としても子どもや若者が「できるようになること」が定量的に把握可能となるものを取り入れる必要があると考えております。
				子育て支援 課長	子ども・若者の視点に立った新たな評価指標を設定することだが、指標の現状値をどのように把握するのか伺う。	今後実施を検討しております子ども・若者を対象としたアンケート調査の中で、より多くの子どもたちの声を聴き、新たな評価指標における現状値を把握する予定でございます。
5	子どもの声の聴き方について	43	井上豪史 委員	子育て支援 課長	Ⅴ豊橋市子ども計画の体系 1基本理念に「豊橋市子ども計画の策定にあたっては、子どもの声を聴き、子どもの目線に立つ」とあり、参考資料2豊橋市子ども計画策定スケジュールには「子どもの意見を聴く授業」との記載がありますが、具体的にどのような取組を行っているのか伺う。	子どもの意見を聴く授業は、実施を希望した小中学校に職員が出向き、「未来のよはし」をテーマに、子どもたちから自由な意見を聴く取組です。これまでに小学4年生から中学3年生までの7校11クラスで行っており、9月以降にも小学3年生や国際クラスを含めて4校23クラスで実施する予定です。授業を行うにあたっては、事前に担任の先生などからクラスの雰囲気伺い、授業の進め方について相談するとともに、授業を行う職員はカジュアルな服装や親しみやすい言葉遣いなどを心掛けることで、子どもたちが自由に発言しやすい雰囲気づくりに努めております。こうした中で、子どもたちは「こんなとよはしになったらいいな」、「こんなとよはしに住みたいな」といった自分なりの意見やアイデアを生き生きと発言することができています。さらに、事前に配布したワークシートに意見を記入してもらうことで、授業当日には意見を言えなかった子どもたちからも、数多くの声を届けてもらうことができております。

No.	質疑項目	該当頁	質疑者	答弁者	質疑内容	答弁内容
5	こどもの声の聴き方について	43	井上豪史 委員	子育て支援 課長	小中学校のこども以外の声を聴く取組について伺う。	児童養護施設や子育て支援団体といった、こどもを支援する立場にある方や、障害のある子をもつ保護者など、こどもに近い存在である方々のところへ足を運び意見を伺う予定です。 また、学校へ行きづらさを感じているこどもや、その保護者の声も聴くことができるよう、教育委員会と連携しながら取り組んでまいりたいと考えております。
6	性教育の重要性について	33	古池もも 委員	学校教育 課長	指標（4）で「生命の大切さや性についての正しい知識を学ぶ機会がある」の実績値が低調であるが、新しい子ども計画には、特にそれを受けての方向性や内容が見られない。そこで、学校教育における性教育の重要性についてどうとらえているかを伺う。	学校における性教育というと、思春期に差し掛かる年齢の子どもたちを中心に、生殖をめぐる内容が中心であると受け止められがちですが、それだけではありません。就学当初の時期はもちろんのこと、それぞれの発達段階に応じた内容や向き合い方を着実に身に付けていくべきであると考えています。
				学校教育 課長	基本理念をめぐる7つの目標は、いずれも子どものもつ権利に基づいており、「みんなから大切にされ、自分の意見を言うことができる」「安心して過ごすことができる」など性に関連するものもある。人権意識の醸成の一環として、今後の性教育をどう進めていくのかについて伺う。	人権教育は、日常のあらゆる場面の中で展開されるべきものです。性教育は、この人権を土台とした教育であり、どの子どもにも、もれなく施されなければなりません。心と体の健康、幸福な状態、尊厳の実現を目指しながら、必要となる知識やスキル、態度、価値観を身に付けることができるよう、現在、教員向けに編纂を進めている冊子「包括的性教育の手引き」をよりどころとして充実を図ってまいります。
				こども保健 課長	学校に行っていない子どもや既に卒業した青年期の子どももいる。 学校現場以外で、こどもに性や命の大切さを伝える機会を増やすことについて考えを伺う。	性や命の大切さを学ぶことは、二次性徴や妊娠について知ることだけでなく、自分自身を大切にし、健康であるとともに、他者の存在や健康も大切にできることに繋がる取組であるのとらえています。 現在も高校生などを対象に健康教育を実施しておりますが、若い世代の方や、若い世代を取り巻く社会への啓発は重要であり、次期計画においても引き続き、関係機関と連携し推進していきたいと考えております。
7	こどもの居場所の考え方について	41	古池もも 委員	子育て支援 課長	Ⅳ豊橋市こども計画の策定に向けての中に「学校への行きづらさを感じているこどもの居場所の確保」とあるが、次期計画において、登校の有無にかかわらず放課後や休日も含めたこどもの居場所の考え方について伺う。	不登校の児童・生徒が大幅に増加していることから、ほっとプラザやエールームの充実を含め、学校への行きづらさを感じているこどものさまざまな居場所を確保することが必要となっております。 また、放課後児童クラブやのびるndeスクールなどの放課後のこどもの居場所や、公園やこども食堂、学習支援教室などの地域におけるこどもの居場所のさらなる充実も重要と考えております。 計画策定にあたっては、こども自身がその状況に応じて、自らの意思で選択できるような、新たな居場所のあり方についても整理する必要があると考えております。
8	現行計画との考え方の変化について	43	古池もも 委員	子育て支援 課長	Ⅴ豊橋市こども計画の体系や参考資料の計画体系図（現行計画と次期計画の比較）から、現行計画と次期計画では大きな変化があるように思うが、どのように変わっているのか伺う。	現行計画は子育て支援を主眼として策定しましたが、次期計画は、「こども基本法」や「こども大綱」の考え方を踏まえ、こどもや若者の目線での計画づくりを行うことから、基本理念の考え方や計画の体系など、大きく変わる点がございます。 とりわけ、こどもの意見を聴き、こどもの目線に立って、こどもの最善の利益を守ることを目指し、こどもや若者の意見を聴く新たな取組を通して、こどもたち自身の状況やニーズをよりの確に捉えることに努めてまいります。 また、こどもや若者にとって、自らの意見が十分に聴かれ、社会に変化をもたらすきっかけとなる経験は、自己肯定感や自己有用感、社会の一員としての主体性を高めることにもつながるため、こどもの声に耳を傾ける取組を継続的に行うことを計画に位置付けることなどが、現行計画と大きく変わる部分であると考えております。
				子育て支援 課長	基本理念の考え方や計画の体系が大きく変わり、7つの目標が達成できたかどうか、こどもや若者を対象としたアンケート調査を実施して確認することだが、その内容や対象年齢について伺う。	さまざまな年代のこども・若者が回答しやすいよう、インターネットを活用した調査を想定しておりますが、年齢によって言葉の理解度や置かれている環境などが異なるため、質問の内容や使う言葉には留意する必要があります。 今後、7つの目標や目標達成に向けた取組に関する評価指標を検討していく中で、アンケート調査の対象となる内容や年齢、手法についてもしっかりと考えてまいります。